

各地区業況アンケート結果（30年6月調査分）

（30年6月25日）

全国鉄鋼販売業連合会

6月22日締切で、当会役員151名に対しこのアンケートを行ったところ73名の回答があり（回答率48.3%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※ $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

1. 企業の5割弱が前年同月比数量増

問1】貴社の5月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	15	21	24	7	6	73	72
比率	20%	29%	33%	10%	8%	DI+44	DI+67
売上金額/前年同月比	26	18	18	8	3	73	72
比率	35%	25%	25%	11%	4%	DI+77	DI+103

2. 赤字企業2割弱

問2】貴社の5月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

0	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	25	24	11	11	2	73	72
比率	34%	33%	15%	15%	3%	DI+81	DI+93

3. 民間建設とその他需要家向けやや増加傾向

問3】貴社の営業窓口から見て6月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	2	10	33	10		55	+7	-4
民間建設向	2	22	33	5	1	63	+30	+24
自動車向		5	28	2		35	+9	-23
その他需要家向	2	21	34	7		64	+28	+5
仲間取引		10	40	9	1	60	-2	-27
計	6	68	168	33	2	277	+16	-4
比率	2%	24%	61%	12%	1%			

4. 夏場から秋口に向け期待感高まる

問4】貴社における向う7月から9月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	5	47	17	1		70	71
比率	7%	67%	24%	2%		DI +80	DI +59

5. コラムさらに不足気味へ

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	品種別	A	B	C	D	E		6月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-31	-24	-29	-20	-19	-11	10	8	-4	-17	0	0	鉄筋用丸鋼		3	21	3	1	28	-7
-14	-3	-13	-13	-13	-6	3	-4	7	10	10	10	構造用丸鋼		5	24	1		30	13
-11	-12	-9	-5	-9	-3	3	0	0	-10	-3	-3	平角鋼			29	2		31	-6
-18	0	0	15	22	29	38	25	22	8	-6	-3	H形鋼		5	22	2		29	10
-16	-26	-13	0	21	32	54	29	48	11	33	38	コラム	1	12	8	1		22	59
-10	-16	-13	0	-8	-6	11	19	3	0	3	-6	小形山形鋼			32			32	0
-26	-19	-16	-5	-5	-5	6	-7	0	-13	-18	-12	中形山形鋼			30	1		31	-3
-24	-22	-5	3	-3	0	11	0	-3	-3	0	-9	溝形鋼			30	1		31	-3
-19	-20	-13	-10	-10	3	0	4	-3	-16	-15	-14	軽量形鋼C形			25	3		28	-11
-9	-20	-5	-18	-14	-15	5	-5	-9	-16	-16	-15	軽量形鋼広巾			18	2		20	-10
9	7	3	23	0	29	22	44	41	32	4	14	冷延薄板	1	4	23	2		30	13
3	-12	-9	11	14	39	46	61	50	31	27	23	熱延薄板		5	28	1		34	12
16	-3	-6	35	31	47	53	73	59	50	40	33	表面処理鋼板		8	22			30	27
32	9	14	45	31	64	69	76	80	52	32	25	酸洗鋼板		6	28			34	18
-13	-11	-5	10	10	46	53	76	55	24	21	19	中板		8	28	2		38	16
-8	-19	-19	-5	3	29	21	18	21	8	-6	14	厚板	1	6	26	3		36	14
-19	-7	-18	0	5	17	0	-7	6	-6	0	13	極厚板		2	15	2		19	0
-6	-11	-9	-6	3	20	6	-4	3	-7	3	-10	縞板		1	27	2		30	-3
-16	-28	-14	-15	-3	0	3	7	0	-12	-11	-5	中径角			29	4		33	-12
-15	-23	-13	-16	5	0	8	-3	3	-9	-8	-8	ガス管黒		2	30	4		36	-6
-11	-21	-18	-20	-3	3	3	-3	-3	-14	-6	-8	構造用鋼管		1	28	5		34	-12
-9	-14	-10	1	3	15	21	22	18	5	4	4	計	3	68	523	41	1	636	5

6. 需要堅調も価格転嫁が当面の課題

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交せて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	丸棒の荷動きが悪かったが、6月は一気に動くことになる。スクラップ、副資材の環境から荷動きが活発になると更なる値上げを誘因する可能性がある。
	B	公共事業、土木は例年並みだが、民間建設は予想以上に好調である。農業関連の牛舎の発注が遅れているため、今後の工期に支障が出ないか心配である。
東北	A	新規案件が少ない。これでは価格転嫁も思う様に進まない。契約残を消化するのみである。
	B	新規受注がパッとしない。
	C	端境期で物件が不足している。ユーザーは様子見で地区の鉄筋マーケットは全く精彩を欠く状態である。
	D	地元のファブ（鉄骨加工業者）の山積みは特に高い状況である。建築関係の鋼材需要は5月より良く年末まで高い状態で推移すると予測される。また、土木、建築の公共工事案件もそこそこあり、今後、順次に発注されれば、鉄筋ほか鋼材についても需要増が期待される。
新潟	A	5月連休後も中弛みから抜け出せず、活況感はまだ感じられない。6月以降に期待と同時に値上げ分の価格転嫁が当面の課題である。
	B	関東物件と地場物件で需要は出てきたが、価格転嫁の遅れで利益率が下がっている。
	C	自動車関連は稼動日連動で低調。夏場以降は季節商品の立ち上げで増加が見込まれる。建築需要は好調でファブは何処も山積みが高く、建築向けの切板が増加している。
	D	倉出し在庫数量は多少増加したが、価格が関東相場に追い付いていない状況。
	E	「次の締め日以降に値上げをさせてください」と毎月お決まりの様にお願いを続けている。値上げが完了しない。構造用丸鋼、ステンレス鋼に欠品が出てきたようだ。
	F	荷動きは空中戦中心でありあまり芳しくない。供給面では高炉の形鋼が以前からタイトであり、厚板もタイトになってきた。価格を上げて対応しなければならない。
	G	ファブは関東物件と地場物件で秋頃まで仕事を抱えている。
	H	久しぶりに入荷が順調だったため売上も伸びた。値上げは継続して行っているが、まだまだ未達となっている。
東京	A	5月販売数量は前月比10.5%増であった。前年同月比では9.5%減。流通各社は売上確保に懸命で価格転嫁が進まない。
	B	受注のために値下げをする動きもあり、メーカー値上げの価格転嫁に苦労している。
	C	在庫は適正水準だが、販売が鈍いため不安視している。値上げもしにくい環境で苦戦している。追加値上げの発表があったが、特別な反応もなく物静かである。マクロ的には需要は底堅い。とは言っても末端は厳しい状況のためどうしても温度差がある。
	D	売上、数量ともに落ちている。再販価格の転嫁を行った為、4月に在庫の駆け込みがあったと思われる。
	E	競合他社と品種値上げのタイミングにズレが生じ、様子見となり思うように値上げが進んでいない。全体に動きは旺盛で今後も期待できそう。
	F	高炉メーカーは収益改善から店売り向けに値上げを行っているが、ヒモ付き向けの値上げは出来ていない。そのため、市況が盛上らず、価格転嫁に苦慮している。

東京	G	首都圏の建築、土木物件は公共、民間ともに堅調が続いている。6月から更に増加している。今月から年末まで持続する案件を受注したが、商品確保に不安がある。
	H	表面処理鋼板は例年通り4～6月の荷動きがおとなしい状態だが、月を追うごとに荷動きは改善されている。7～9月は建築物件が出てきて忙しくなりそうである。高炉メーカーからの供給は満足ではないので、在庫を大切に販売していきたい。値上げも実施されなければ赤字になってしまう。
	I	土木関連は好調を維持。7月以降の引合いは旺盛であり、価格は強含み横ばい状態である。
静岡	A	6月に入り大口案件がなくなり、小口対応に追われている。
	B	大型案件に関し、主要部材のリードタイムが延びているため、設計変更による遅れが発生している。H形鋼の1次、2次加工先の減少と発注時期の集中でファブの手待ち工程遅れが懸念される。夏場以降の繁忙期がどうなるか不安である。
	C	地場のS造物件(Mグレード以上のファブを指定、60トン程度)が得意先工務店から見積依頼があった。数社のファブにお願いしたところ「時期的によいのでやりますよ」と快諾いただいた。しかし、従来の取引先から同じ物件の依頼がきたという理由で断られてしまった。ある業者は「請けられないが見積書だけはだすよ」との返事に工務店の方も驚いたそうだ。地場を大切にす業者とそうでない現実的な業者と様々である。地場物件が少ない。某大手鉄鋼商社の決算は増収増益であった。鋼材平均単価は14%アップ。要因として「利は元に在り」だと思いが一般鋼材だけだとしたら一次流通と二、三次店の温度差は解せない。一次、二次加工の依頼があったが、地元物件ではない。信用調査機関から取引先への問い合わせが増えたが、その逆も当然あると思う。
石川	日本国内はすべての産業(ソフト、ハードともに)が次の時代に向かって移行中にある。だから賛否両論の様々な意見はあるのは当たり前。政治も同様である。まだ暫く時間はかかる。何年か後には落ち着くが業種、都会と地方、ハードとソフト、高齢者と若年者によって差があり、なかなか着地点はいつ頃なのか分かりづらい。1つ言えることは鉄は不滅だということである。	
富山	6～8月は80～90%操業、9～10月は120%操業の見込み。値上転嫁進むも一部、金具類は認められず、大阪、名古屋地区に部品ごと調達先を変更されるケースも散見される。	
岐阜	A	ジャンル別には産業機械になる物件、材料、製缶ともに仕事があり、加工先が見つからないのは鉄骨物件も同じである。機械用設備を言った方が良いのか。メインの工作機械系はあまりパツとしない。当方の主力でない鉄骨物件の受注により売上が増減する。
	B	建築関連などの荷動きは堅調に推移している。設備関連、産業機械、建設機械向け等の仕事はあり、納期対応を迫られている。納期最優先の傾向が見受けられる。
愛知	A	5月は稼働日数も少なく3月決算の反動も影響する時期でもあるが、家具、プロパの車、集購も量的には良かった。集購は8月以降、急減の連絡があり、戸惑っている。安定供給に注力してきたのに裏切られた。配送費の値上げを認めたため今後の利益は当面減少。仕入価格の転嫁と運賃の同時転嫁は無理である。粘り強くやっていく。EV化のスピードが速くなってきているとの情報がある。省力化と生産性の向上、販売変更などやることが一杯である。加工製品の販売量が少しずつ増えており、今後を期待している。

愛知	B	4月、5月と非常に荷動きが悪かった。6月中旬に入ってやっと動きが出てきた感じである。すべての注文（加工、定尺）が短納期である。また、コイルセンターに客を取られてしまった。
	C	例年なら6月に少しは盛り返すのだが、自動車を含め動きが悪い。工作機械、設備関係で良好なところもあるが、盛上る力が乏しい。自動車が良くなれば雰囲気はがらっと替わるが、その気配は感じられない。価格も上げたいのだが、押し上げる力がない。
	D	建築は堅調に推移しているが、H形鋼は支給材が多い。加工は忙しいが、販売が少ない。自動車部品メーカーは輸出が好調で輸送用パレットが出ている。
大阪	A	6月に入り、荷動きはそこそこ出ているがメーカーからの高値玉が入ってきている。販売単価を押し上げていかなければならないが、押し上げる程の迫力がない。
	B	4～5月は端境期ということもあり、動きは冴えなかった。だが、6月に入り中小物件中心に多少の動きが出てきた。ぼちぼち公共工事の予算実効化と荷動き増加に期待したい。
	C	定尺の荷動きが悪く、再販値上げも少し一服状態である。メーカーは追加値上げの意向のため、ここが踏ん張り所である。
	D	関西地区の需要は活況とは言えないが、例年並の動きと考える。建築関連はホテルの増改築、ネット通販の拡大を背景に物流施設などの案件は動いている。また、首都圏ほどではないが、オフィスビル需要も好調な企業業績を反映して大阪でも空室率は改善し低下している。今後の業務拡大を見据えてオフィス移転、増床するニーズは増えている。
香川		6月に入ってやっと市況値上げの気運が高まってきた。当社もH形鋼などの形鋼全般はプラス2千円唱えをしている。簡単に値上げができる需要ではないが、ここで値上げができないと流通は自滅してしまう。6月は各メーカーの更なる値上げ模様なので、そうなれば流通も対応する。
北九州	A	メーカー値上げ姿勢は強いようだが、流通の販売単価は小康状態である。地場小口ユーザーでは人手不足で忙しそうなのに量はあまり感じられない。
	B	荷動きは落ち着いている。市況は電炉条鋼品種では値上げ玉が入荷してきており、価格転嫁が停滞しているように思われる。先々の案件はあるようなので、梅雨明け後に期待。